



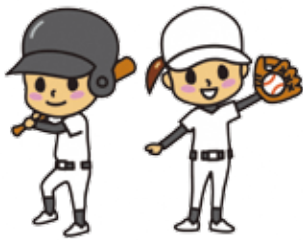
■ 外で遊ばなくなった子どもたち

外で遊んでいる子どもたちを見かけることが少なくなっていると感じている方も多いと思います。

今、子どもたちはどのように放課後の時間を過ごしているのでしょうか。学童保育の待機児童発生をうけて調査をする中、子どもたちの放課後の過ごし方について考察してみます。



■ 子どもたちの放課後



平成になると小学校部活動が始まり、子どもたちは帰宅組と部活組に2分されていきました。部活動に参加しない子どもは校庭では遊べなくなり、外で遊ぼうと思っても近所に

友達がみつからない。親の地域への不安があるので家で過ごさせる。外で遊ばせるよりも習い事に行った方が安全だし、友達も出来る。テレビゲームをして過ごす事が多くなった。等の理由で外で遊ぶ子どもが減っていきます。子どもたちは学校生活のみならず、放課後の自由な時間に経験する遊びや活動を通じて、社会性やコミュニケーション能力を発達させます。充実した放課後の生活は学童期の発達課題を達成するために不可欠なものです。これを受けて文科省は、インターネット利用が増加する反面、子ども同士の交流や自然に直接接触するなどの体験の減少などから社会性を十分に身につける事が出来ず、精神的な不安定さや集団への不適合という形で問題が顕在化する



こと、それぞれの発達段階に応じた支援の必要性を指摘しています。さらに少子高齢社会では地域や家庭のつながりが希薄にな



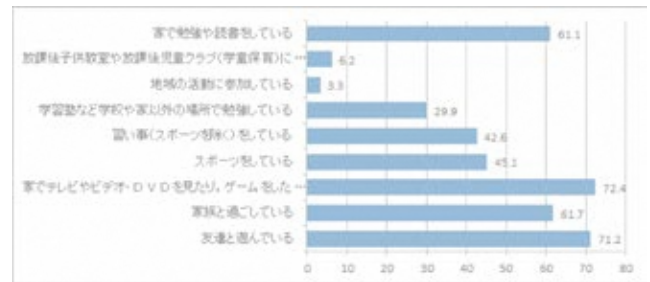
り、それ様々な子育ての困難さの問題が生じてきました。こうした問題や指摘から小学生の充実した放課後の過ごし方を提供するため、平成19年から放課後子ども教室と学童保育が始まり、そして令和、小学校の部活動はなくなりました。

■ 学童保育希望者増は全国的な傾向

全国的に共働き家庭や核家族化など社会情勢の変化と共に学童保育利用が増加しています。高学年になると学童保育を離れ、自宅で過ごし



たり習い事をする児童が増えるものの低・中学年の利用者が多くあります。



小学6年生の放課後の過ごし方(国立教育政策研究所のデータ引用)

南関町でも待機児童が発生するほどに毎年増加傾向にあり、来年度より全小学校区で学童保育が開設されることになりました。

■ 児童の環境調査アンケート

後期が始まってから、南関町の子どもたちの放課後の過ごし方を把握したくアンケート調査を行いました。私たちの子どもの頃のように校内や校庭で遊べるようになるのが理想と思うのは時代錯誤かもしれませんが、子どもたちの充実した放課後生活を過ごすことのできる空間を見つけ出したり創り出すことが出来たらと考えています。





総務産業常任委員
議会運営委員

立山比呂志

① 来年の町長選挙について

② 8月の集中豪雨について

来年、任期満了を迎えるが3度目の町長選挙に出馬をするのか？

(町長) 次期、町長選挙に出馬をしたい。

2期目に掲げたマニフェストの成果は？

(町長) 「住む場所と働く場所の確保」「高齢者や障がいがある方も安心して暮らせる環境の整備」を町づくりの3本の柱として、2期目のマニフェストは「難関突破18策」としてきた。まず第1に「地域住民の声

を反映できる開かれた行政運営の実現」について 昨年度は、コロナ渦のためアンケート形式であったが、他毎年度は地域懇談会の開催や出前講座、各種団体等の会同へも出来る限り出席し、多くの意見や要望を聞いて町政に活かせるように取り組んできた。

あとの17策の説明は、議会議事録を参照

3期目の抱負を尋ねる。

(町長) 町民の皆さまが安全・安心に暮らせるようなハード・ソフト両

面の環境整備を行い、幸せを感じて頂ける町づくりにしたい。

8月の集中豪雨での土石流警戒区域・急傾斜地の浸水区域・崩壊区域など前回配布になったハザードマップの適合について

(総務課長) 町全域に土砂災害による特別警戒区域がある。今回、地域防災計画に掲載している区域に避難指示を発令したがそれ以外の地区でも土砂崩れが発生している。危険区域を検証しなおしハザードマップに反映させたい。

文教厚生常任委員長
議会運営委員

井下 忠 俊



ヤングケアラーの現状と今後について

近年18歳未満の子どもが親や兄弟、祖父母などの世話や介護するヤングケアラーという言葉を目にする。どの様に認識されているか。

(町長) 国の調査によると、クラスに1~2人の該当者がいるが、当事者としての自覚がない場合も多く難しい部分もある中、今後寄り添う工夫も必要になってくると感じている。

南関町での実態調査は？

(教育長) 今のところ、具体的な調査は実施していない。まずはヤングケアラーについての周知を図っていききたい。

小中学校において、スクールソーシャルワーカーの人員配置はどうなっているのか。

(教育長) 中学校に一名配置されており、各小学校と密に連携を取りながら、必要に応じた支援策を講じている。

角度を変えた質問になるが、家族に介護を要する方が居た場合、ケアプランの作成時に子どもを一つの介護力として扱っていないか。

(福祉課長) 町内の事業所に確認したが、そのような事案はないということである。

介護を行う中、家族の協力は十分必要であり否定するわけでもないが、子どもには子供の世界があり、そのために友達関係に悪影響が出ないとも限らない。しかも当事者はその先、社会に出ても孤立する割合が大きいとの声も寄せられている。非常に難しい問題ではあるが、対象者が一人でもいたら、偏見無く親身になって聞くとところから始め最終的には法整備された支援策に繋がるような連携の構築を求めたい。





副議長
文教厚生常任委員

境田 敏 高

- ① 太陽光発電に伴う環境問題について
- ② 公共工事に伴う残土処理について

盛り土危険個所が16カ所

環境に優しいエネルギーと言われる太陽光発電であるが、建設場所や設置場所・規模などを考慮しないと環境に大きな影響を与えてしまうこともある。そこで太陽光発電をめぐるトラブルが全国各地で増えているが、わが町の現状と対策を尋ねる。

(町長) 近年太陽光発電施設設置に伴う問い合わせ等が増加している。造成・開発中の対策には、県と十分に情報共有を行い地元からの情報もいただきながら申請者にしっかりと

助言・指導を行い、適正な開発行為が完了するように努めている。

二度三度と同じ災害が起きている。適切な災害対策をとっていないために起きていると思われる。南関町は甘く見られているようである。これから他の地域でもこういう問題が起こらないようにすべきである。行政は誰のためにあるのか。町は町民が安心して暮らせるようにするのが仕事である。不適切な設置で、防災や景観に悪影響が及ぶのを防ぐためにも、早めに太陽光発電整備についての町条例を設けるべきではないか。

(町長) 南関町に合った条件等も含めながら検討していければと思っている。

熱海市で起きた土石流災害は、盛り土の不適切な処理で崩壊し被害を大きくしたとの見方が強まっている。県内でも盛り土の造成地や土砂流出の危険性がある箇所を緊急点検するとした。そこでわが町でも該当する箇所はあるのか。

(町長) 県の報告では23ヶ所が報告された。16ヶ所がちょっと危ないということで、町のほうで再調査している。

一般質問

広報常任副委員長
総務産業常任委員

西田 恵 介



人口の減少対策について

2020年国勢調査で人口は、8,968名、想定以上の人口減少。今後の対策は。同時に小学校の児童数も減少しているので、統廃合についても尋ねる。

(町長) 過去10年間の国勢調査時と比較しても、減少数、減少率とも最大の数字である。過疎地域の指定を受けているが、住環境的には条件が不利な地域とは考えていない。総合病院や大手スーパー等はないが、近隣市町と連携が必要なインフラも整っていると考えている。行政だけではなく、町議会、町民の協力や意見を反映し、町全体で対応していく必要がある。

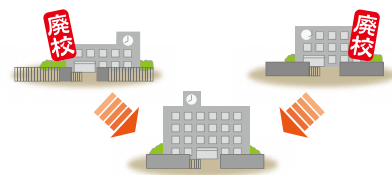
(教育長) 小学校の児童数の推計は、本年1月31日現在で、本年度400人、令和4年度416人、令和5年度412人、令和6年度396人、令和7年度400人、令和8年度388人、令和9年度369人で推移する見込み。一番少ないのは、第二小学校で、本年度の新入生は現在5人。3年生になる令和5年度は、2年と3年の複式学級編制となり、学年進行で進んでいく見込み。また、令和7年度からは2年と3年が複式学級編制となり、令和7年度、令和8年度の2年間は二つの複式学級編制となり、その後、令和9年度には4年と5年の複式学級編制になる見込み。小学校の統廃合は、複式学級編制が複数校でなることを一つの判断

基準と考えている。

この現状を踏まえ、町長の考えは。

(町長) 学校の在り方検討する時期でもある。南関町地域未来構想の中で学校の統廃合含め、検討していく必要がある。

住民の意見を活かしたまちづくりが、住んでよかったということになる。時間をかけ、理解を深め丁寧に進めていかなければならない。





広報常任委員会委員長
文教厚生常任委員

中村 正雄

- ①人口減少率が最も厳しい結果について
- ②学校の働き方改革について

人口減少率対策に、「今までにない若者会議」を

国勢調査の人口減少率は、隣接する市町に比較すると南関町が最も減少している。このデータは5年間の結果であり、今後の町政策にどう生かしていくのか？

(町長) 本年4月より「第三期住んでよかったプロジェクト推進事業」に取り組んでおり、抜本的な見直しの必要はないと考えている。特に有効な事業等が出てくれば、随時、検討したい。

「現役世代」がどう考えているのか、掴むために「今までにない若者会議」を

提案する。夜か土日でのオンライン会議、ボランティアでなく有償での参加依頼、コンサル外注でなく自分たちで計画書を仕上げる。町内＋町外＋役場の若者で構成。見解は？

(町長) 非常に参考になる提案と思う。今進めている南関町地域未来構想基本計画にも間に合うので検討する。

学校の働き方改革に、「校務のデジタル化」、「断捨離」、「客観的な勤務時間把握」を

学校の現場から聞こえてくる声は、業務量は変わらないとの声の方がまだある。

文科省通達をもっと大胆な改革であり、事例集も出ている。先生たちの仕事をデジタル化はどのくらい進んでいるのか？

(教育長) 事務処理等業務の改善、学力向上研究協議会と重ねた授業改善、学習支援システム活用による個別指導の充実などで改善が見られる。まだ不十分なのが、教職員の意識改革と学校マネジメントが挙げられる。

意識改革だけでなく、教育委員会が率先して、国の事例集にあるようなデジタルを活用した時間短縮につながる新しい働き方の仕組みの導入を期待したい。

総務産業常任副委員長
監査委員

打越 潤一



- ①バンブーグループ譲渡の経過について
- ②新型コロナウイルス対策について

事業譲渡契約(8/27)、中間処理施設のバンブーフロンティア、発電事業のバンブーエナジーの経過は？

(町長) 事業継承者である南関バンブーフロンティア(株)が「許可に係る譲受」の申請を県に提出し、近日中には許可が下りる予定。また新会社の南関バンブーエナジー(株)への事業継承承認がNEDOからも下りている。今後は両新会社と南関町において環境保全協定を締結する予定。

中間処理業の許可取得は？

(税務住民課長) 譲受の許可が県より下りた後、事業者が施設の改修、

沈殿槽の改修工事をされる。その後に県より通知が出る。新会社より、処理業許可の申請を県に出され、許可が下りた後、初めて事業ができるという流れになる。

事業内容は？

(税務住民課長) チッパーを使用した破壊施設になり、処理品目は木くずと明記されており、処理品目は木、竹、パークの3品目が対象。

雨水等の排水処理対策、騒音・振動等の法令遵守、苦情等に対する速やかな対応等は、徹底するように指導を。

ウイルス感染も第5波へと拡大し、ワクチン未接種の児童生徒、先生等も不安を感じている。学校の感染対策は？

(教育長) 児童生徒の感染防止対策として、登下校を基本とした教育活動の工夫実施。集会等のオンライン実施、分散事業による密な状況の解消と換気の継続実施。オンライン授業等が実施できる準備の加速。教職員の防止対策では、出勤時の体調確認、入校時の消毒。ウイルスを学校に持ち込まない。校内でのクラスター発生防止の取組徹底を確認した。





地方創世調査特別委員長
文教厚生常任副委員長
広報常任委員

北原浩一郎

- ① 校内安全衛生委員会の組織化について
- ② 人口減少に立ち向かうまちづくりについて

子どもたちに関わる先生方の職場環境の改善を

学校職員労働安全衛生規則を作らない理由は？

(教育長) 町規模で規則を作る定めはなく、努力義務である教職員のストレスチェックの実施や町選任の産業医の活用ができるようにした。令和元年度に作成した「南関町小・中学校業務改善の方針・計画」を基盤に毎年見直している。

教育委員会を事業者とし、町内五つの事業場で同じ教育業務をと考えれば、教職員数は50人を超える。この規則は、教育委員会のリーダーシップでいつでも作れる。また、トップダウンをボトムアップに変えていく。それが安全衛生

規則の策定ではないか。

(教育長) 今の方針・計画は南関だけと言ってもよいくらい、私は総合的な働き方改革の方向性を示している。

先進的な取り組みもわかるが、現場の声を吸い上げるシステムがまず必要。

まちづくりの主役は町民

年度内に策定予定の地域未来構想だが、これまでの構想とどこが違うのか。

(町長) 校区ごとの強み・弱みそれぞれの特色、そしてそこに何が必要なのか計画を作成する

その構想を実行していくのはどこか。

(町長) それは行政、住民の方、全ての方であると思っている。

主役は町民だ。そしてシステムが必要。まちづくり協議会みたいな組織作りを。

(町長) 実行するための組織の設立等も必要になる。

町のために、人のために動く、働く、そういう気持ちを持った人たちが活躍できる場。繋がりが強い校区ごとに組織を作り地域の問題を解決して行けるかが人口減少に向かう鍵。

総務産業常任委員
地方創世調査特別副委員長
有明広域行政事務組合議員

杉村博明



バンブーフロンティア事業について

バンブーフロンティア事業についてはプラスであったか？

バンブーフロンティア事業に関しては、前回6月定例議会において質問を行ったところであるが、その中で質問が時間に追われ出来なかったため、改めてバンブー事業に関する質問を行う。

竹の買取単価と総額は幾ら支払われたか尋ねる。次に令和3年度の納税はされたか伺う。

また、バンブーフロンティア事業に関して南関町にとってはプラスであったか、マイナスであったかを問う。

(町長) 令和2年度末までの買取実

績は、総重量 2,043,6 トン、年平均 510,9 トン総額で 1,980 万 8,380 円となっている。

買取単価はキロ10円、補助金総額 725 万 2,516 円支出している。

南関町にとってプラスであったかマイナスであったかについては、バンブー事業を本町で起業され展開されたことはプラスであったと考えている。

むすびとして、この事業に関しては、誘致企業として町が行う前から危ないと 噂もあったことは事実であり、国、県も巻き込んでいながら、町はプラスであったと町長は答弁されたが、町の支出は大きな損失ではなかったか、もっと慎重に誘致

企業として行う必要があったのではないか、この企業がもたらした町への功績は皆無ではなかったか自問自答するところである。

一般質問後、バンブー事業に関し100条委員会の設置の動議を出したが、賛成者がなく成立することは出来なかった。



生の声を聴く

南関町関素麵 製造業組合のみなさん

& 広報委員



議員 伝統ある特産品を継承していくことのやりがいと共に、大変さは？

- 食べてもらった方から「やっぱ違うね。美味しかね」と声を頂いたときに、やってよかったと思う。
- 「今年もまた来ましたよ」と言われるのが嬉しい。
- SNSで嬉しい言葉をもらったときに、やりがいを感じる。
- リピーターのお客さんが半分。作る量は決まっているので、夏になると品切れとなる。
- 作れるのは、1日に100~120束ほど。
- 作り始めたら完成するまで終われない。1日をかけて作る。朝4・5時から始めて夜の10・11時までかかる。体力がいる。週6日はこれが続く。
- 天候、気温によって塩加減が変わる。次の日の湿度、気温を予想して作るので、外れたら大変。
- 作り手が少ないので自分が怪我をすると作れない。日ごろから体調管理には気を使っている。
- 朝早くから夜遅くまで労働の時間が長いので若者には大変かと思うが、そこを分かってくれば伝統的な仕事なので続くと思う。
- 本当に好きにならんと出来ない仕事。



議員 そうめん組合としての活動は、目標は？

- 組合として11月の県物産フェアに参加して、そうめんとそうめんぶしの販売している。

議員 もっと高くても売れると思う。価格の値上げが難しいなら、付加価値を付けて高価格帯の商品を作ったらどうだろうか。例えば南関産の小麦粉を使う、有名な醤油をセットにする、桐箱に入れるなど高価格の数量限定品を作ったらどうか？

- 価格を変えるのは、売り上げの半分は昔からの顧客なので、簡単にはできない。
- 熊本県内での認知度をもっと高めたいと思っているので、県庁の玄関に設置してある県内の名産品展示コーナーに南関そうめんを並べたい。球磨焼酎が展示してあるが何年も変わっていないようなので、その中に割って入って、多くの県庁職員さん、出入りする県民、県外の方にアピールできたらと思う。
- 過去に県内の小麦粉メーカーから熊本県産小麦粉の話があり、いろいろ試したことがあったが、南関そうめんを作るのに最適な小麦粉ができなかった。結局、各人がそれぞれ昔からの小麦粉を使っている。
- 町史を見ると、江戸時代は菊池方面から小麦粉を仕入れていたようだ。
- 人を増やして雇えるようにして、生産量を増やしたいと思っている。

議員 日本酒の新しい製造として注目を浴びているメーカーは作業の分業化ができています。そうめんも企業化して作業の分業化ができれば労働時間や負担が減ると思うが？

- 作り手のこだわり、納得感がそうめんを作り上げるのでそれは難しい。
- 一人前になるのは、2年はかかる。



竹製麵所
岳 伸啓

奈良原製麵所
奈良原 諒

片山製麵所
片山 悦子

田中製麵所
田中 武士

まつお製麵
松尾 敬章



雪の糸素麵 猿渡製麵所
師富 慶太郎

猿渡製麵所(坂下作業場)
金坂 俊祐

綾田製麵所
綾田 慎也

松尾製麵
松尾 安二

坂口製麵所
坂口 大和

議員 行政の支援および具体的な要望は？

- 組合の中で商標登録をする話は以前からあるが、法人化や費用の面で出来ていない。機械で作った南関そうめんが、同じ「南関そうめん」のブランドを付けて出回っている。「完全手造りの南関そうめん」を守るためにも商標登録を進めたいが止まっている状態である。町からの補助金を頂けたら有り難い。
- 町を通して県庁展示を後押しして頂きたい。
- 行政の支援は、これまでなかったので、急に言われてもわからないが、何かしらしてもらえれば有り難い。
- ふるさと納税での注文は伸びている。テレビで放映されると一気に注文が来たりする。
- 生産量を増やそうとしても人を雇うだけの資金がないので、支援してもらえる制度があればいい。



※左から
 雪の糸素麺 猿渡製麺所 師富慶太郎さん（関町）
 副組合長 竹製麺所 岳 伸啓さん（関町）
 松尾製麺所 松尾 安二さん（関町）
 組合長 綾田製麺所 綾田 慎也さん（関村）

議員 地域起こし協力隊をそうめん弟子入りさせるのはどうか？ 3年を修行期間に充てもいいのではないかな。

- 給与、家賃の負担が無いなら、弟子入りの受入体制はできると思う。
 - 玉名ラーメンが玉名産の小麦粉を使用しているように、南関産の小麦粉を使えるように農家との協働も考えられたら面白い。
- 議員** 町を代表する特産品南関そうめんを行政、商工会、製麺所が協力しながら、もう一段の発展へ。



銀座熊本館

南関町関素麺製造業組合

南関そうめんは約300年の伝統をそのままの形で伝えている日本で唯一の手作りのそうめんです。

竹製麺所	TEL 53-0107 FAX 53-0107
奈良原製麺所	TEL 53-0551 FAX 53-0551
片山製麺所	TEL 53-0829 FAX 53-0829
田中製麺所	TEL 53-0668 FAX 53-0668
まつお製麺	TEL 53-3771 FAX 53-3771



雪の糸素麺	TEL 53-2106 FAX 53-3627
猿渡製麺所	TEL 53-2106 FAX 53-3627
猿渡製麺所 (坂下作業場)	TEL 82-8660 FAX 82-8660
綾田製麺所	TEL 53-2290 FAX 53-2290
松尾製麺	TEL 53-0519 FAX 53-0519
坂口製麺所	TEL 53-1518 FAX 53-1518

【事務局】 熊本県玉名郡南関町大字関町1500-1 南関町商工会内 TEL 0968-53-0120 FAX 0968-53-0305

「生の声を聴く」を終えて・・・

長い歴史の中で引き継がれていく秘伝の技、そして産業。それは価値があると世の中が認めているから、存続していける。話を聞いていると、その価値を維持していくために変化する自然環境と対応していく勘と長い労働時間が支えている。

またその元には、先祖代々から家系に流れるアイデンティティ（一人の人間としての個性）、価値観が存在しているからだろう。

一方、時代はテクノロジーの発展と共にどんどん変わっていている。働く人たちの環境も変わってきている。仕事に対する価値観も変わってきている。

この変化の中でも、伝統の価値観に共感する人の心は消えることはないと思う。

「南関そうめん」の伝統品を広く知らせていき、共感する人に南関町へ移住してもらおうことも、我が町の伝統品を継続していく手段にもなっていこう。

いろんな選択肢を考え試していくことで、「担い手」を見つけていければと、改めて思った。

広報常任委員会



南関中3年 たに ざき こう りゅう 谷崎 煌琉 さん



南関町に住む18才未満の人たちに、町の未来を語ってもらうコーナーです。

私が考える、南関町の未来

ぼくが思う南関町の良いところは、緑が多く、静かに暮らせるところです。
 例えば、都会では「建物が多く、便利で過ごしやすい」といった意見があると思いますが、建物が増えることによって緑が減ったり、今、世界で問題となっている地球温暖化にもつながっていると思います。でも南関町では、自然豊かで住んでいる方々が落ち着いて暮らすことができると思います。僕が思う未来の南関町は、自然を生かした公共施設があればいいなと思います。例えば花きなどに囲まれた公園を作るなど、そういった場所があれば気軽に行くことができ、やすらぎの場所となるからです。
 今、僕は高校を卒業して就職するか進学するかで迷っています。しかし、将来は南関町にとって役に立つ職業に就きたいと考えています。僕は、大人になって植物を植えたり、ボランティア活動に参加したり、地域の行事に参加したりしてそういったことで恩返しができるといいなと思っています。学校でもSDGsなどを勉強したので、今の南関町をよくしたいです。

議会傍聴しませんか

9月定例議会の傍聴は、新型コロナウイルス感染症対策のため、報道関係者のみの制限をしました。

6日：4人、7日：1人、10日：1人

定例議会は、年に4回・・・3月、6月、9月、12月に開催。 ●通常はどなたでも傍聴できます。(定員 30名)

議会日誌

■7月

- ・ 7月12日(月) 文教厚生常任委員会
- ・ 7月15日(木) 総務産業常任委員会、
全員協議会、広報常任委員会
- ・ 7月20日(火) 常任委員長・議会運営委員長研修会
- ・ 7月26日(月) 広報常任委員会
- ・ 7月30日(金) 議会運営委員会、第4回臨時会

■8月

- ・ 8月10日(火) 文教厚生常任委員会
- ・ 8月18日(水) 総務産業常任委員会
- ・ 8月19日(木) 全員協議会
- ・ 8月27日(金) 議会運営委員会

■9月

- ・ 9月6日(月) 9月定例議会、広報常任委員会
- ・ 9月7日(火) 9月定例議会、
総務産業常任委員会、
文教厚生常任委員会
- ・ 9月8日(水) 全員協議会
- ・ 9月9日(木) 全員協議会
- ・ 9月10日(金) 9月定例議会

編集後記

今の編集メンバーでの発刊も残す12月議会号のみとなりました。思い起こせば、新メンバーとなり初回の委員会で「議会だよりをもっと読んでもらえるように」とのビジョン(目標とする姿)を掲げて、いろんな案を出し合いながら、今の土台となる形を作り上げていきました。時間がかかりすぎて、発行日が15日遅れてしまうという事態も起こし、冷や汗の場面もありました。ビジョンに合うなら過去からのものも引き継ぐし、新しいものはどんどん採用する柔軟な考えで、対話していったことは、すごく価値がありました。これまでの議会だよりにはなかった姿も多く取り入れることができました。

- 全面横書きの左側開き
 - 全面カラー化
 - 「生の声を聴く」「私が考える、南関町の未来」で考え・意見発表の場づくり
 - 一般質問の文字量削減や見出し化などでの読みやすさ、とっつきやすさ
 - 「比べてみました!」で予算・決算での過去比較のビジュアル化
 - 議案審議重視の方向で、全員協議会での質問掲載(今号)などなど。
- 次期メンバーでも更なる進化を望みます。 (中村)



□ 発行責任者

議長 橋永 芳政

□ 編集(広報常任委員会)

委員長 中村 正雄

委員 北原 浩一郎

副委員長 西田 恵介

委員 鶴地 仁